

IX 土 壌 消 毒

総括注意

- (1) 土壌くん蒸剤（クロールピクリン、ダゾメット等）は適用作物、病害虫が異なっており、適用登録のない作物に対しては薬害が出たり、適用病害虫以外には効果が劣る場合があるので、適用を確認して使用する（別表）。
- (2) 土壌くん蒸剤が、対象となる作物・病害虫に適用登録がある場合でも、床土とは場では使用方法、処理量が異なる場合が多いので、確認の上使用する。
- (3) 同様に、対象となる作物・病害虫により処理法が異なる場合があるので確認の上使用する。以下に示すのは一般的な処理方法である。
- (4) 土壌くん蒸剤を使用する際は、処理区周辺へガスが漏れないよう十分注意する。

1. 床土消毒

病 害 虫 名	防除時期	一 般 防 除 方 法	注 意 事 項
苗床に発生する土壌病害	秋期か 春期	<ol style="list-style-type: none"> 1. クロールピクリン剤（液剤） 床土（培土）30cm 立方（30×30×30cm）当り 1 穴 3～5ml の割合に注入し、踏みつけながら穴をふさぐ。注入後は直ちに厚さが 0.03 mm 以上のポリフィルムで 7～10 日間被覆する。その後床土を切返し、十分ガス抜きを行うが、ガス抜き期間は 20 日以上とする。 2. クロールピクリン剤（テープ剤） 床土を 30cm 程度の高さに積み、テープ剤を 45cm 間隔ごとに約 15 cm の深さに本剤を一本施用する。更に 30 cm の高さに積み上げこれを繰り返し、最後に厚さが 0.03 mm 以上のポリエチレン、ビニール等で被覆し、7 日以上おく。処理後、10～30 日たってから、被覆を取り除き、耕耘ガス抜きをする。 3. 焼土 かまどの上に鉄板か大鍋を置き、薪を燃やしながら湿った土を 60～70℃で約 15 分位蒸し焼きする。 4. 蒸気土壌消毒 土壌蒸気消毒機で消毒する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガス剤を用いる場合は、風向き、周囲の状況等を考え、危被害対策には十分注意する。特に、シートのすそからガスがもれないようにする。 2. クロールピクリンテープ剤の包装フィルムは水溶性のため、濡れた手で作業したり、降雨等で破袋しないように注意する。 3. ビニールは、クロールピクリンに腐食されるので被覆資材として使用しない。 4. 焼土は、焼きすぎると成分や物理性を悪くするので、よくかきまぜ、焼きすぎないようにする。 5. クロールピクリンは魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。